

講義名	経済情報処理 II		
科目区分	展開		
担当教員	森澤 龍也		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

現実の経済について論じる際には、単なる思いつきや現実の動きを無視した議論を避け、証拠（データや資料）に基づいて議論することが重要である。また、効果的な情報伝達（プレゼンテーション）を行うことで、伝えたい内容を相手に的確に伝えることが必要となる。この講義では、経済情報処理 I の内容を発展させ、PC教室での実習を通じて、経済分析および将来の実務で必要となる情報処理能力の修得を目標とする。

到達目標

- (1) 表計算ソフト（エクセル）の応用的な操作方法（データ分析、関数貼り付けなど）を習得できる。
- (2) 統計分析の基礎的な概念（記述統計量など）を習得できる。

提出課題

講義時間中に実習課題を提出する必要がある。また、講義期間中に中間確認演習を実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

講評・解説を行う。

評価の基準

講義参加・講義中課題 : 35%
 中間確認演習 (2回) : 30%
 定期試験 : 35%
 ※欠席・遅刻は減点対象である。

履修にあたっての注意・助言他

当科目の受講に当たって、経済情報処理 I を必ず事前に履修しておくように注意されたい。
 当科目はPC実習科目であり、教室・設備の制約上、事前登録が必要な科目である。履修に当たっては十分に注意されたい。
 講義開始時に出席確認および教材ファイル配布をPCシステムにて行うので、講義開始時間前に入室し、開始時点で各自のPCが使用可能な状況にしておく必要がある。遅刻者に対しては特に考慮すべき理由がない限り、教材を配布しないので、十分に注意されたい。また、USBメモリなどの保存用メディアを持参されたい。
 出席重視科目である。また、講義時間外に各自よく復習してほしい。
 講義中での私語は厳禁である。質問は遠慮なく尋ねられたい。

教科書
・特に指定しない。

プリント資料及び参考文献

担当者作成の教材ファイルを配布する。
 参考文献については講義中に適時、紹介する。

授業計画

- 1 経済情報処理 II 序論
- 2 絶対参照と複合参照①
- 3 絶対参照と複合参照②
- 4 確認課題と解説①
- 5 ゴールシークの活用
- 6 確認課題と解説②
- 7 中間確認演習②
- 8 記述統計量の活用
- 9 確認課題と解説③
- 10 Excel関数の活用①
- 11 確認課題と解説④
- 12 Excel関数の活用②
- 13 確認課題と解説⑤
- 14 中間確認演習②
- 15 総復習課題の演習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

- ア：PBL（課題解決型学習）
- イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
- ウ：ディスカッション、ディベート
- エ：グループワーク
- オ：プレゼンテーション
- カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

総予習（関連書籍講読） 5時間
 予習 1.5時間/回×15回
 復習 1.5時間/回×15回
 試験用学習 10時間

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

適宜、質問・疑問点を募りながら、PC実習を行う。

実務経験の有無及び活用

備考

当科目は経済情報処理 I が修得済みであることを前提として講義が行われる。
 当科目は経済学部経済情報学科経済情報コースの選択必修科目である。